ただいま子育て奮闘中
渡辺百里恵さん（田野原）

渡辺さんは、小学一年と保育園三歳児の兄弟を子育て中。働いているので、上の子は学童保育を利用。帰りは保育園に行ってから、学童に迎えに寄るので六時ごろになってしまうとか…。

◆学童利用についてお子さんから不満は出ないですか？

「楽しく遊んでいるようで特にないですね。学童には関係がないのですが、今の子どもたちを見ていてかわいそうだと思うのは、やはり、子どもたちだけの空間がないということ。事件多発のことを考えると難しいことかもしれませんが、そこでしか学べない、子どもだけで遊べる居場所を作ってあげられたらと思いますね」

◆他に気になることは？

「家の方の道路は街灯が少なく、脇道を入ってからは真っ暗です。今市では、女の子の事件の後、街灯をたくさんつけたそうです。何かあってからでは遅いので、ぜひ街灯をつけて欲しいです」

◆我が家では（これだけは）という方針はありますか？

「私も働いて忙しくしているので、夜は本を読んであげたり、主人が物語を作って聞かせたり、親子のふれあいの時間を持つようにしています」

◆この先お子さんに望むことは？

「家の周りは田んぼで、二人元気にかけずり回ったり、家の中では絵を描いたり、段ボールで家を作ったりして遊んでいます。二人とも保育園で自然の中で自由に遊んだり、人に対する優しさや、守らなければならないルールなどをきちんと学んできているので、私としては勉強は二の次で今のまま、元気で人を思いやる気持ちを忘れずに育っていって欲しいです」

◆男の子二人のママの渡辺さん、保育園の送り迎えに義父母の力を借りるなど、家族の応援を受けながら、お仕事も子育てもしっかり頑張っているようです。

矢板の元気印

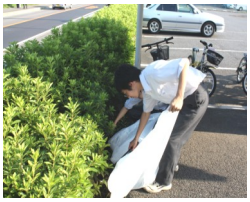
生徒の活力源は清掃などのボランティア活動
・・・・・　矢板中央高校生徒会

●私立矢板中央高校の生徒の服装が以前と比べ、高校生らしくなってきたという声があがっています。また、歩道などの清掃活動も見かけます。この、矢板中央高校の清掃活動などのボランティア活動についてお知らせします。

●清掃活動は、平成八年当時の校長先生の指導をきっかけとして始まり、以来、継続して実施されるように。現在は月一回、金曜日の放課後に生徒会の活動の一環として、校舎前から矢板駅までの通学路を中心に行われ、年間延べ六百人が参加しています。

●当日は生徒会が清掃用具を準備し、午後三時三十分ごろから開始、学校に戻ってゴミの分別を役員がおこない、終了は午後五時過ぎになるということ。ゴミは空き地や生け垣などに多く、特に空き缶、空き瓶などが同じ場所に捨てられる傾向があることが分かったそうです。

●この活動について、生徒たちは「清掃活動は、見返りを求めないで、自分から活動をしていく中で、地域の人たちの温かさや優しさに触れ、奉仕活動の大切さを学ぶことができてうれしい」「通学路や駐車場など、自分たちが使っているところを奇麗にしたい。地域の人から感謝の言葉を聞いてとてもうれしい。だから楽しんでやっている」と語ってくれました。



●進学のための学習やクラブ活動にも力を入れている同校ですが、それらと重なる時間となることから、年々参加人数が減ってきているのが目下の悩みです。このほかの奉仕活動として、矢板児童館や東児童館での手伝いや、長峰公園で「花の会」の手伝い、通学時のマナーアップ運動なども実施しています。これらのさまざまなボランティア活動が、スポーツや学業、マナーアップの向上にもつながっているのかもしれません。今後も同校の生徒の活動が注目されます。

「私のりんご料理コンテスト」
☆お菓子の部　最優秀賞☆
グラタン風アップルケーキ

【材料】
りんご2個、バター100g、砂糖60g、シナモン少々、ブランデー大3、レモン汁少々
◎カスタードクリーム
小麦粉30g、砂糖60g、卵黄2個分、牛乳1+1/2カップ、ベーキングパウダー小1/2強
ケーキ用スポンジ、生クリーム1/4カップ、粉砂糖少々

【作り方】
①りんごは皮と芯を除き2cm厚さのくし形に切る
②鍋にバター、砂糖、シナモンを入れ火にかけ、バターが溶けたら①のりんごを加え、やわらかくなるまで煮て、最後にブランデーとレモン汁を加える
～カスタードクリームを作る～
③鍋またはボールに小麦粉、砂糖、ベーキングパウダーを入れてまぜ、ぬるま湯くらいに温めた牛乳を少しずつ加え、泡立て器でよく混ぜる。
④　③を中火にかけ、絶えず混ぜながら沸騰するまで煮る
⑤　④の火を止め、卵黄を加えて手早く混ぜ、もう一度火にかけさっと火を通す
⑥仕上げに、ケーキ用スポンジを型に敷き、りんごの煮汁をかけりんごを並べる
⑦冷ましたカスタードクリームに生クリームを合わせ⑥の上に流す
⑧200℃のオーブンで30～40分焼く
⑨焼けたら粉砂糖をふるって出来上がり

玉田の釣り堀に飛来した二羽の白鳥。矢板市では、この池だけに？

釣り堀を管理している斎藤さん（玉田行政区長）が、毎日餌を与えているためか、居心地良さそうに仲良く二羽で飛び回っています。このままシベリアに帰る春までいると思われます。

餌を与え過ぎると食べ過ぎで死ぬこともあるそうなので、観察する時は、管理している斎藤さんの指示に従ってほしいとのこと。

来年以降も仲間を連れて飛来するよう温かく見守りたいものです。

編集後記　先日、庭の片隅にフキノトウを見つけ、さっそく天ぷらと手打ちそばでいただきました。春が送ってくれたごちそうです。香りと苦みの中に力強い自然の息吹を感じました。編集委員の新参者です。市民力の息吹を皆さまにお伝えできれば、と念じております。（T．W）